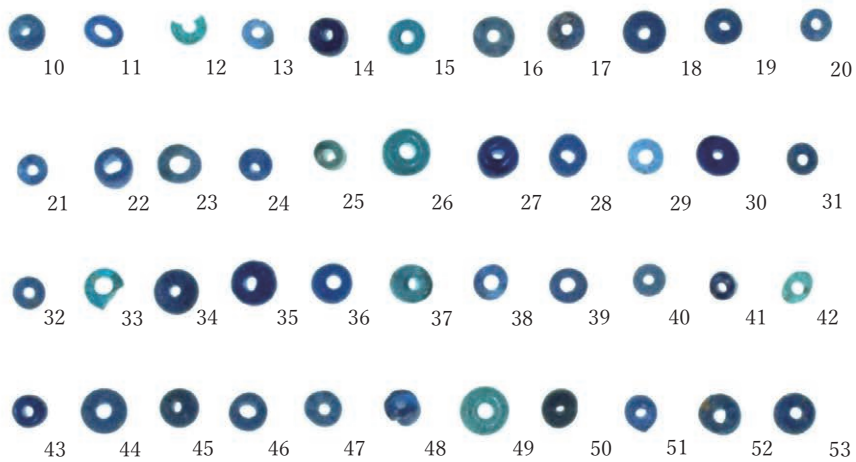
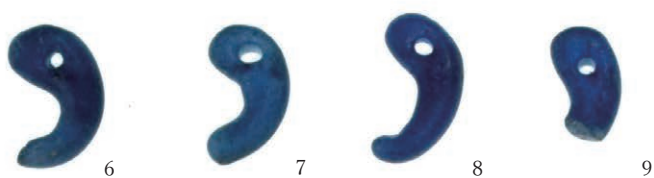


口絵



## 甲山古墳出土のガラス製勾玉とガラス製小玉

甲山古墳は、つくば市北条に所在する後期古墳である。後世の削平により築造当時の墳形は明確でないが、墳頂部から二基の箱式石棺が検出されており、2号棺からは、鉄刀、鉄鏃、刀子などと共に9点のガラス製勾玉と44点のガラス製小玉の出土が確認されている。ガラス製品はすべて石棺東側の頭蓋骨周辺から出土しており、一連の首飾りを構成していた可能性がある。

蛍光X線分析による化学組成分析の結果、ガラス製勾玉は青色・紺色を呈するものが植物灰ソーダ石灰ガラス、緑灰色不透明を呈するものがアルミナソーダ石灰ガラスであることが明らかになった。気泡の入り方が異なるため、両者は異なる技法で成形されたと考えられる。また、ガラス小玉は植物灰ソーダ石灰ガラス・アルミナソーダ石灰ガラス・低アルミナカリガラスといった異なる材質のものが混在していることが明らかになった。その大半が、引き伸ばし技法によって製作された舶載品である。

加藤千里